

五十嵐ゆうこの米國小売業最新レポート

2022年8月19日

Dollar General eyes bigger presence in Health Care ヘルスケア部門で存在感を高める Dollar General

テネシー州グッドレッツビル市を拠点とし、全米47州で18,356店舗を運営しているダラーストアチェーン Dollar General は、店頭でヘルスケア商品の販売拡大を開始しました。



この動きはドラッグストア業界にとって、大きなインパクトを与えています。

Dollar General は顧客ニーズに応えるべく、ヘルスケア事業の拡大計画を昨年の7月に発表しました。

同社の計画では出来るだけ多くの店舗で、咳止めや風邪薬、デンタル用品、栄養剤、医療用品、健康補助用品、女性用生理用品等の品揃えの増量を盛り込んでいます。

さらに Dollar General は、グローバルなコンサルティング・ファームとして有名なマッキンゼー・アンド・カンパニーからアルバート・ウー博士を副社長兼最高医療責任者として新しく迎え入れました。

ウー博士の採用は、ヘルスケアに関する商品やそれに伴うサービスのプロバイダーとの関係を確立・強化にし、包括的なネットワークを構築し、手頃な価格とサービスを顧客へ提供する為だそうです。

米国人口の 75% が Dollar General の店舗から約 5 マイル（8 キロ）圏内に住んでいます。

同社は、現在の医療エコシステムでは十分なサービスを受けられない事が多い農村地域や都心から遠く離れた地方に出店を広げており、独自のアクセスが提供可能である事を強調しています。

Dollar General の 2022 年度の出店計画では、1,110 店舗の新規、1,750 店舗の改装、そして 120 店舗の移転を予定しています。

アルバート・ウー博士は今回の採用に関し「Dollar General が、ヘルスケア事業への大きな一歩を踏み出すことに興奮しています。さらに優れた才能を持ち、名高いヘルスケア専門家を新しい諮問委員会に迎えました。Dollar General の『Serving Others（聖書の教え：Serve God through serving others 人への奉仕が神様への奉仕に繋がる）』をという企業使命の下、Dollar General の専門チームが、ヘルス&ウェルネスの分野で取り組みます。私たちは、米国の複雑なヘルスケア問題に対し、有意義なソリューションを提供出来るように努めます。」と述べました。

ウー博士を始めとするヘルスケア・アドバイザー・チームには、以下の優秀な専門家らが参加しています：

- パトリック・キャロル博士

リテールヘルス、マネージドケア、統合デリバリーネットワークの分野で経験を積んだ医師のリーダーでキャロル博士は、以前 Walgreens、Hims & Hers Inc. Hartford Healthcare での最高医学責任者です。

現在は、Vida Health の最高医学責任者と Dollar General では戦略的イニシアティブ、臨床および品質プログラム、プロバイダーグループとの関係における監督を兼務担当します。

- ケイティ・ランツ博士

医療経営者であり、起業家として様々なケア提供のモデルの設計、導入、拡大において 20 年の実績を持つ人物です。

現在は Personal Care Medical Associates の最高戦略・製品責任者であり、National Hospice and Palliative Care Organization の国内理事を兼務しています。

2018 年までは Anthem が買収した Aspire Health で最高臨床責任者でした。

- ボン・ナギョン博士

医師、集団衛生の専門家、そして公衆衛生のリーダーで過去に特定地域の Health & Happiness(健康と幸福)を改善するために組織を超えた協力関係を構築した実績があります。

現在は Google の公衆衛生・集団衛生担当クリニカル・リードを務めています。以前は Blue Cross and Blue Shield of North Carolina で最高医療責任者と上級副社長を務め、Centers for Disease Control and Prevention(CDC)では政策と戦略の分野において責任ある役割を担ってきました。

- ヨランダ・ヒル・ウィンバリー博士

ウィンバリー博士は臨床組織や教育プログラムの開発に基づいて、全米の医療シーンで存在感を示した先見性のあるリーダーです。

小児科と思春期医学の認定医でもあるウィンバリー博士は、Grady Health Systems の上級副社長兼健康公平性最高責任者で米国民の公平な健康維持において戦略的方向性を導く責任を担っています。

また Morehouse School of Medicine(医科大学)で小児科の教授です。

Dollar General は業界において全米最多の店舗数、便利な小型フォーマットと低価格を武器に健康食品事業の強化とヘルスケア・サービスの開発を進めており、今後はドラッグストアチェーンにとって大きな競合となります。

Dollar General の経営陣は、同社最大のシェア獲得の 1 つとしてドラッグチャネルを繰り返し呼びかけています。

注目すべきは第一四半期の時点で既に 1,800 店舗でヘルスケア商品を提供しており、年末までに 4,000 店舗以上にする計画であるとアナリストは指摘しています。

Dollar General のスピーディなヘルスケア商品提供の拡大は、売り場の配分面積を最大で 30% 広げ、最大 400 点以上の商品数が特徴です。

また Dollar General は、一般的なドラッグストアより 40% 価格が安いという面において優位性を持っています。

今月初めに新しく Dollar General 最高執行責任者に就任したジェフ・オーウェン氏は、第 1 四半期決算に関するアナリストとの電話会議で、「2022 年に出店する新店舗の約 800 店は、幅広い品揃えを求める顧客の要望に応えるため 8,500 平方フィートの大型店舗形態を計画しています。従来店舗と比較し、売り場面積が増えるので、これらの店では大容量クーラーの数を増設し、OTC 医薬品以外にも多くのヘルス & ビューティ商品や新鮮な青果物を含んだ幅広い品揃えを可能にします。Walmart や Costco などをはじめとする他の大型ディスカウントストアチェーンが、眼鏡や薬局などのサービスを持つように Dollar General もヘルス & ウェルネス業務への拡張を継続的に行うのです。それが顧客に対してさらなる価値を提供する手段であると考えていますし、この取り組みが、競合他社に対し、シェア拡大や店舗の生産性向上にもつながるとも考えています。」と語っています。



前回のレポートで、Amazon と医療ケア大手 One Medical の買収計画が現実化すればドラッグストアチェーンチェーンの足元を揺るがすかもしれない という情報をお伝えしました。

但し、こちらは未だ承認待ちの状態ですので、もう少し先の話になります。

それよりも今回の Dollar General がヘルスケア事業の拡大を始めたニュースは、既にスタートしている事と強力なヘルスケア専門チームを構築した点において、ドラッグストアチェーンに対するインパクトは大きいようです。

2万店舗もの出店数を持ち、1ドル均一の低価格にヘルスケアの専門性をプラスするという事は、低所得者だけでなくもっと幅広い層にも受け入れられるでしょう。

近い将来、Dollar General が大衆的な OTC 医薬品の販売のみならず、ヘルスケア・サービスにも手を伸ばす計画も予定しているとのことで、それこそ正に“Break the tip of iceberg(氷山の一角を壊す)”といった諺のごとく、消費者を長年苦しめてきた高額な医療費の構造を壊すきっかけになるかもしれません。

